
平成22年1月期第2四半期決算 参 考 資 料

平成21年9月2日

(株)サガミチェーン

東証・名証1部上場 コード:9900

設立:1970年3月 資本金:63億300万円

株式会社サガミチェーン

目次

1. 連結対象企業の事業内容	—————	P2
2. 平成22年1月期第2四半期累計期間の業績概況	—————	P2
3. 財政・キャッシュフローの概況	—————	P3
4. 店舗展開の状況	—————	P3
5. 平成22年1月期第2四半期累計期間の業績背景	—————	P4
6. 平成22年1月期の業績予想	—————	P5
7. 追補	—————	P5

1. 連結対象企業の事業内容

○連結子会社の対象範囲は5社であります。

[連結子会社]

名称	住所	資本金又は 出資金（千円）	事業の内容	議決権の所有 割合（％）
株式会社ディー・ディー・ エー	名古屋市守山区	200,000	飲食店の経営 FC店店舗への材料 提供及び経営指導	100.0
株式会社サガミサービス	名古屋市守山区	10,000	損害保険及び生命 保険の代理業務	100.0
株式会社エー・エス・サガ ミ	名古屋市守山区	70,000	飲食店の経営	71.4
株式会社ボンパナ	名古屋市守山区	300,000	ベーカリーの製造 販売	100.0
上海盛賀美餐飲有限公司	中国上海市	260,000	飲食店の経営	93.4 (16.5)

※議決権所有割合の（ ）書きは間接所有部分で内書であります。

2. 平成22年1月期第2四半期累計期間の業績概況

○連結業績の概況

○個別業績の概況

単位 (百万円/円)	平成20年 7月期	平成21年 7月期	前年比 (%)	単位 (百万円/円)	平成20年 7月期	平成21年 7月期	前年比 (%)
売上高	12,483	10,942	△12.3	売上高	11,041	9,678	△12.3
営業利益	△174	△377	—	営業利益	△233	△385	—
経常利益	△171	△354	—	経常利益	△205	△381	—
当期純利益	△477	△1,402	—	当期純利益	△463	△1,407	—
一株あたり 当期純利益	△19.5	△57.5	—	一株あたり 当期純利益	△18.9	△57.6	—

○第2四半期決算の配当について

第2四半期決算の配当つきましては、3月4日発表の通り見送ることといたしました。

○株主優遇策について

平成21年7月20日現在に当社株式を一千株以上保有の株主様に対し、1万5千円相当（通期換算 3万円）の株主優待食事券を進呈いたします。

3. 財政・キャッシュフローの概況

○連結財政状態

単位 (百万円/%/円)	平成20年 7月期	平成21年 7月期
総資産	19,800	18,111
純資産	14,274	13,000
自己資本比率	72.0	71.7
一株あたり純資産	584.5	532.4

○連結キャッシュフローの状況

単位 (百万円)	平成20年 7月期	平成21年 7月期
営業活動によるキャッシュフロー	△454	△435
投資活動によるキャッシュフロー	△248	△180
財務活動によるキャッシュフロー	371	△218
現金及び現金同等物 期末残高	3,723	2,950

○設備投資について

第2四半期累計期間における連結設備投資は 3億48百万円（H20.7実績 4億79百万円）となりました。

○減価償却費について

第2四半期累計期間における減価償却費は 2億87百万円（H20.7実績 2億97百万円）となりました。

4. 店舗展開の状況

	平成21年1月期	平成21年7月期			平成22年1月期 計画		
	店舗数	出店	閉店	店舗数	出店	閉店	店舗数
サガミ	168	—	10	158	—	18	150
どんどん庵	82	3	3	82	4	4	82
あいそ家	4	4	—	8	7	—	11
さがみ庭	2	—	—	2	—	—	2
あんかけスパDONDONあん	3	—	2	1	—	2	1
上海盛賀美	4	1	—	5	2	—	6
ボンパナ	2	—	—	2	2	—	4
その他	1	—	—	1	—	—	1
合計	266	8	15	259	15	24	257

○第2四半期累計期間の店舗展開の状況について

業態変更を含む新規出店は「どんどん庵 3店」「あいそ家 4店」「上海盛賀美 1店」の 8店（うち純新店数 4店）となりました。一方、閉店につきましては「サガミ 10店」「どんどん庵 3店」「あんかけスパ DONDONあん 2店」の合計 15店（うち純閉店数 11店）。これにより期末の店舗数は 259店となりました。

○平成22年1月期の店舗展開の計画について

業態変更を含む新規出店は「どんどん庵 4店」「あいそ家 7店」「上海盛賀美 2店」「ボンパナ 2店」の合計 15店（うち純新店数 7店）を計画しております。一方、閉店につきましては「サガミ 18店」「どんどん庵 4店」「あんかけスパDONDONあん 2店」の合計 24店（うち純閉店数 16店）を計画。これにより平成 22年1月期末の店舗数は 257店を計画しております。

5. 平成22年1月期第2四半期累計期間の業績背景

- (1) 平成22年1月期より売上高・広告宣伝費の計上方法を一部変更しております。
- ① 前期までは、受取家賃を営業外収益、これにかかる支払家賃等を営業外費用に計上しておりました。転貸物件が増加していることを理由に今期より、受取家賃を売上高、これにかかる支払家賃等を売上原価に計上することといたしました。
 - ② 前期までは、値引券回収に伴う回収額を売上高、同額を広告宣伝費にて計上しておりました。値引券の配布内容が変更となるため今期より、売上高・広告宣伝費共に計上しないことといたしました。
 - ③ これによる第2四半期累計期間の前年同期比へ及ぼす影響額は、売上高 2億48百万円減額、売上原価率0.8%ポイント増加、販管費 2億88百万円減額となります。
- (2) 第2四半期累計期間の業績につきましては、二期連続の減収・減益となりました。売上高は二期ぶりの減収。営業利益、経常利益につきましては二期連続の減益、当期純利益は三期連続の減益となりました。
- (3) 第2四半期累計期間の取り巻く環境につきましては、金融不安に端を発した景気後退局面は底入れしたとの見方はあるものの、国内消費においては家計所得の減少や雇用不安等により依然低迷が続いております。また、新興感染症や天候不順等の不測の事態に晒され、予想以上に厳しい環境となりました。
- (4) 売上高につきましては、3月4日発表の業績予想（以下 期初予想）において、主力業態「サガミ」の既存店売上高を前年同期比 3.7%減と見込んでおりました。これに対し、実績は客単価が減少したこと等により、前提条件を4.9%ポイント下回る8.6%減となりました。これにより、売上高は期初予想比 6億87百万円減収の 109億42百万円となりました。
- なお、前年同期比では15億40百万円の減収であります。
- (5) 売上原価率は期初予想比 0.7%ポイントアップの31.2%となりました。
- 販管費につきましては、期初予想において前年同期比 7億81百万円の経費削減を計画しておりました。これに対し実績は、水光熱費や消耗品費等が計画を上回る削減効果を得られたことにより、期初予想を2億64百万円上回り前年同期比 10億45百万円の減額となりました。
- (6) 経費削減については計画を上回る推移であるものの、売上高が前提条件を下回ったことにより、営業損失は期初予想比 2億87百万円減益の 3億77百万円、経常損失は期初予想比 2億79百万円減益の 3億54百万円となりました。
- なお、前年同期比では営業損失 2億02百万円、経常損失は 1億83百万円それぞれ減益となりました。
- (7) 既存店の収益性が低下したこと等により、減損損失が増加し特別損失を 8億38百万円計上いたしました。また、繰延税金資産を1億63百万円取り崩すこととなりました。これにより、当期純損失は期初予想比 12億02百万円減益の14億02百万円となりました。
- なお、前年同期比では 9億25百万円の減益であります。
- (8) 主力業態「サガミ」の既存店の状況につきましては前年同期比、客数5.2%減、客単価4.2%減となり、これにより売上高は8.6%減となりました。

6. 平成22年1月期の業績予想

○連結業績予想

単位 (百万円/円)	H21.1	H22.1 (予)	前年比 (%)
売上高	25,582	22,950	△10.3
営業利益	267	△350	—
経常利益	227	△320	—
当期純利益	△549	△1,870	—
一株あたり 当期純利益	△22.5	△76.6	—

○個別業績予想

単位 (百万円/円)	H21.1	H22.1 (予)	前年比 (%)
売上高	22,821	19,870	△12.9
営業利益	164	△300	—
経常利益	210	△290	—
当期純利益	△501	△1,800	—
一株あたり 当期純利益	△20.5	△73.8	—

○連結業績予想について

- (1) 平成21年8月24日に、業績動向を勘案したうえで、平成21年3月4日に公表いたしました、平成22年1月期（平成21年1月21日～平成22年1月20日）の業績予想数値を修正いたしました。
- (2) 通期の既存店売上高の見通しにつきましては、前年同期比 7.2%減を想定しております。これは上期実績に加え、第2四半期の期初予想増減率に基づき下期既存店売上高を見直したためであります。これにより、売上高は期初予想に対し 10億50百万円の減収となる見通しです。
なお、前年同期比では 26億32百万円の減収となる見通しであります。
- (3) 経費削減については、概ね計画通りの進捗状況であると判断しております。しかしながら、既存店売上高が前提条件を下回る見通しであることから、期初予想に対し営業利益 6億60百万円・経常利益 6億50百万円それぞれ減益となる見通しです。
なお、前年同期比では営業利益 6億17百万円、経常利益 5億47百万円それぞれ減益となる見通しであります。
- (4) 下期の特別損失につきましては、店舗閉鎖計画等により 4億53百万円を想定し、通期の特別損失は 12億92百万円を見込んでおります。これにより、当期純損失は期初予想に対し 18億45百万円の減益となる見通しです。
なお、前年同期比では 13億20百万円の減益となる見通しであります。

7. 追補

○中期計画について

当社は現在、中期計画を策定中であるものの、先行きに対する不透明感が拭えないことから、下期業績動向を精査する必要があると判断しております。従って、計画の具体的な施策及び影響額については、修正予想に見込んでおりません。

ディスクロージャーポリシー (Disclosure Policy)

(1) 基本方針

サガミグループは、「食文化を通じて地域社会に奉仕する」「企業を通じてお客様に奉仕する」という経営理念のもと、すべてのステークホルダーに対し、透明性、公平性、継続性を基本に証券取引法及び上場取引所の定める法令・規則を遵守し、タイムリーな情報提供に努めます。

(2) 情報開示の方法

東京証券取引所が定める適時開示規則に該当する情報の開示は、同取引所へ事前説明後、同取引所の提供する適時開示電子情報システム(TDnet: Timely Disclosure Network)に登録し提供しています。TDnet 公開後、すみやかに報道機関に同一情報を提供するとともに、当社ホームページへも掲載いたします。ただしシステムの都合上、これら情報の当社ホームページへの掲載が遅れることもあります。

また、適時開示規則に該当しないその他の情報につきましても、適時開示の趣旨を踏まえて適切な方法により正確かつ公平に開示する方針です。

(3) 業績予想および将来の見通しについて

サガミグループの計画・将来の見通し・戦略などのうち、過去または現在の事実に関する以外は、将来の業績に関する計画や見通しであり、これらは現時点で入手可能な情報による判断に基づいております。

したがって、将来の業績等につきましては、様々なリスクや不確定要素の変動および経済情勢の変化などにより異なる場合があります。

(4) 沈黙期間について

サガミグループは決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算発表日の一ヶ月間前の一定期間を「沈黙期間」としております。この期間は、決算に関する質問への回答やコメント、IR活動を控えることとしております。ただし、この沈黙期間中に業績予想を大きく変動する見込みが発生した場合には、開示規則に従い適宜公表いたします。

なお、沈黙期間であっても、すでに公表されている情報に関する範囲のご質問等につきましては対応いたします。

(5) ディスクロージャーポリシーの遵守

サガミグループは、「企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)」の観点からもグループの役職員全員に上記のディスクロージャーポリシーを周知徹底し遵守します。